

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670104480
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム 唐湊の家
訪問調査日	平成 21 年 11 月 5 日
評価確定日	平成 21 年 12 月 29 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

事業所番号	4670104480
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム 唐湊の家
所在地	鹿児島市唐湊3丁目2番4号 (電話) 099-254-6066

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号
訪問調査日	平成21年11月5日
評価確定日	平成21年12月 29日

【情報提供票より】(平成21年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 8 月 3 日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	17 人
常勤	11 人
非常勤	6 人
常勤換算	13.7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建て、1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000円 (水道光熱費)	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 83.9 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今村病院分院 ・ 田上記念病院 ・ 西歯科医院
---------	-------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市を流れる新川沿いの住宅地にある当ホーム周辺は、幼稚園やスーパー、銀行、学生寮などがあり、高齢者と若者が同居している地域である。町内会の公民館で行なう敬老会や新年会には、学生ボランティアの協力と地域の方による太鼓演奏や踊り、詩吟などが披露される。町内会として参加したおはら祭りでは学生と一緒に楽しそうに踊る利用者の姿も見られる。職員は、いつも笑顔を忘れず利用者のしたい事に耳を傾け、ささやかでも希望を叶えるように努めている。車椅子になっても閉じこもることなく地域と家族と共に支えていきたいと、職員の意欲と工夫が感じられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価での改善点はなかったが、職員を育てる取り組みにおいて、職員の個々にあった研修が資質向上に繋がるのではないかとというアドバイスを受け、職員より研修受講の希望内容のアンケートをとって今年度の外部研修参加者の選定に役立てており、職員は積極的に参加するようになってきている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員に昨年度の自己評価票を渡し、参考にしながら今年度を振り返り記入してもらった後に、ミーティングで話し合いユニットの担当者がまとめている。職員は、利用者に対する声かけが押し付けになっていなかったかなど、ケアに対する気づきになっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は定期的に年6回、利用者、家族、町内会長、民生委員、時に学生ボランティアなどが参加し行なわれているが、市担当職員の参加が昨年2回にとどまっており、今後も継続した働きかけが期待される。討議内容は、事業所の状況、活動内容の報告後に参加者による意見交換が行われている。参加者と認知症の勉強会をしたり、高齢者向けの体操のビデオがあるとの情報を得てすぐに借りに行くなどサービス向上に繋げている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が意見を表せる機会は、運営推進会議や面会時、意見箱などである。家族会はないが、新年会と敬老会は家族に参加してもらい家族同士で話し合う場をもっている。家族が疑問に思っている内容などに管理者が答えている。また、面会時などで出された意見や要望は、職員と話し合い運営に反映させると共に家族にも結果を報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入してはいないが、町内会の年間行事予定をもらい地域の一人として、リサイクル活動や夏祭り、おはら祭りなどに利用者と共に参加している。日頃から学生や主婦の方とボランティアでの継続的な交流が行われている他、事業所が主催して行なう敬老会や新年会には、地域の方や近隣の学生も多数参加している。夏休みのサマーボランティアには、小学生から専門学生まで受け入れている。</p>

2. 評価結果（詳細）

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成20年度に職員と話し合っ「地域とのかかわりを大切にし、交流を深めていきましょう」という、地域密着型サービスの理念を従来の理念に加えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲げ、朝の申し送り時に唱和し理念に沿った支援が出来る様に取り組んでいる。また、年度初めに理念についてのアンケートを職員に提出してもらうことで、理念に沿った介護がされているか、職員の方向性を確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日頃から買い物や外出時に挨拶を交わしたり、ボランティアを通して主婦や学生と交流している他、町内会の行事のリサイクル活動や夏祭り、おはら祭り等に利用者と一緒に参加している。また、全職員が救命講習を受け、救急ボランティア事業所として地域に発信し、近隣の方の救命に協力するなど貢献している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員を育てる取り組みのアドバイスを受け、職員に研修希望のアンケートをとり外部研修の選定に役立て、一人ひとりのレベルアップに繋げている。自己評価は、昨年の評価表を参考にし今年の取り組み状況を全職員が記入後、ミーティングで話し合いユニット毎の責任者がまとめている。職員はケアを振り返る機会となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に年6回行われているが、市担当者の参加が2回に留まっているため、継続的な働きかけを期待したい。討議内容は、事業所の状況や活動内容の報告後、意見交換を行なっている。参加者から高齢者体操の情報を得て取り入れるなどサービス向上に繋げている。		

鹿児島県 グループホーム唐湊の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員を年1回～2回受け入れている。また、包括支援センターと協働し、地域で老老介護で困っている人が抱え込まないようにというパンフレットを配布するなど、サービス向上に繋がるように取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している「唐湊の家かわら版」には、行事の様子や誕生日の表情などの写真を沢山掲載すると共に、行事予定や職員異動の報告も行い家族に送付している。金銭出納帳のコピーも一緒に同封し、確認印を押し返送してもらっている。面会の少ない家族には、定期的に利用者と一緒に話し日頃の様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時、意見箱などで家族の意見を表せる機会を作っている。行事後には家族同士で話し合う場も設けており、疑問や不安に思う事などに管理者が答えている。意見や要望があった場合には、職員と話し合い運営に反映させ家族にも報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職、異動も少なく馴染みの職員による支援が行われている。ユニット間の異動はないが、良く行き来があり職員は全体の利用者をケアするという意識を持っている。離職する場合は、きちんと利用者へ挨拶しダメージがないように配慮し、新人には利用者との関係を大切にするように指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の年間研修計画をたて、職員が担当者となって研修している。外部研修は、職員の学びたい項目のアンケートを参考に選定しているため、職員の意識と姿勢が真摯であり参加者が増えている。研修の結果は、資料を使って職員に報告されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連法人のグループホームとの会議等に参加し、交流、意見交換を行なっている。他の事業所の新人教育を2、3ヶ月間、ホームで行ない、職員をその事業所に出向させることで研修となり、事業所の良い点を学びあう機会としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅や施設に出向いて状況把握した後に、本人と家族に見学に来てもらい、一緒にお茶を飲んだりしながら雰囲気を感じてもらっている。入所後は馴染めるように家族の協力を得ながら、面会を多くしてもらったり、面会を少なくし電話をしてもらうなど、それぞれに応じた対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から、言葉づかいや昔からの習わしや郷土料理の仕方などを教わった時には、感謝の言葉を伝えている。畑作りは、利用者と一緒に働き、野菜の植え方、種のとり方などを教わり収穫まで楽しみながら支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常生活の中で、利用者が発する言葉や表情、行動などを良く観察し、「したい事、してほしい事」ノートに利用者の希望を記入し全員で把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの介護計画作成の1ヶ月前から、アセスメントシートに職員が気づきを記入している。担当者会議には、本人、家族、医師、職員などが参加しその人らしい介護計画になるように意見交換を行い作成している。担当者会議に家族が参加できない時は、電話等で家族の意向を確認している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン評価表を使い家族も一緒に3ヶ月に一度モニタリングを行ない、6ヶ月ごとの見直しをしている。利用者の状態に変化があった時や家族から要望があった場合には、その都度話し合い計画の見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態に合わせ、協力医療機関による往診などに対応している他、病院への送迎や受診支援、個人的な買い物や外食など柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。定期受診は職員が付き添い、家族に報告しているが、大事な話や状態に変化があった時には家族と一緒に付き添うようにし、適切な医療が受けられるように情報を提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化や終末期における介護指針」を作成し、事業所としての対応方針を明確化している。家族からの同意書はもらっていないが説明はしている。職員の力量や医療機関との連携状況から看取りは行なわないとしているが、個々の状況に応じて話し合いながら支援していく方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護マニュアルに沿って勉強会を行なっている他、毎日身体拘束に関する問いかけを職員に行なっている。慣れ合いによる声かけやトイレのドアを開け放さないなど、気づいた時に指導している。守秘義務については、職員やボランティアとも誓約書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に寄り添う中で発した思いを職員は受け止めノートに書きとめている。「島に帰りたい」と思い続けていた利用者の思いを実現できるように職員で話し合い、職員が同行し島に帰郷を果たすなど、一人ひとりの思いを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者に聞きながら立て、一緒に買い物に行くと食べたい商品を選んでくる時もある。畑で収穫した野菜の下ごしらえや盛り付け、片付けなど利用者の出来る事を手伝っている。誕生日には、本人の希望を聞き食べたいもの、好きなものを提供し、食事が楽しくなるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週2回入浴することを基本としている以外、曜日や時間を決めずにいつでもゆっくり入浴できるように支援している。風呂のお湯は一回毎に換えるので、一番風呂がよいと言う方にも対応している。入浴拒否傾向の方には、声かけやタイミングなどを工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝の掃除や洗濯物たたみ、調理の下ごしらえや食器洗い、買い物時の荷物持ちなどの役割をもってもらい、趣味を活かし木彫りの彫刻やパステル絵を描いたり、新聞の読み聞かせやレクリエーションでの歌やジェンカなどで楽しみ、季節毎の花見や納涼船、みかん狩りなどで気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子の利用者でも買い物好きな方は、スーパーと一緒にいたり、新川沿いを散歩したりしている。また、ベランダで日光浴をしたり、裏の畑に収穫に行ったり、季節を感じられるようにドライブに行ったりと、いつでも戸外に出られるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず職員が見守りを行いながら自由な暮らしができるように支援している。玄関にはセンサーが付いているが、出かける様子が見られたときには、職員も一緒に同行するように努めている。今の所外出傾向の方はいないが、近隣への協力体制も願っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導の下に昼間、夜間想定避難訓練を、災害時に協力を依頼している学生寮の大学生も参加して行なわれている。風水害や地震についてのシミュレーション指導も消防署から受けている。非常用の飲料水、食料の確保も出来ている。	○	地域の協力も得られての避難訓練が行われているので、今後はさまざまな災害を想定した自主訓練を行い、職員の認識を一つにし、自信を持って対応できるように取り組んでいかれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量をチェックし把握している。きざみやお粥など利用者の状態に合わせている他、嗜好や摂取量に応じて代替品を準備し、毎月2回の体重測定で健康管理を行なっている。栄養のバランスは、関連法人の栄養士に見てもらいアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は水害対策も兼ねて、道路より高く作られている。玄関周りには季節の花を植えたり、椅子を置くなどゆっくりできるように工夫している。対面式のキッチンから、リビングと続きの和室が見え利用者の様子がわかる。道路に面した窓からは、明るい光が入り、風も良く通る。台所から聞こえる包丁の音や、ご飯の炊ける匂いが安心できる要素となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口は、住所と名前を書き表札としている。ベットは備え付けだが、それぞれ使い慣れたテーブルや椅子、テレビ、大切にしている位牌や仏壇、お気に入りの鎧や仏像、観葉植物、自分で描いた絵を飾り、枯葉を部屋の所々に置き自分のイメージした部屋にするなど、居心地良く過ごせるよう工夫している。		